

市長への意見箱

今年度はコロナ禍で件数が急増

きめ細やかな施策展開に活用

問 市長への意見箱の運用状況を聞く。

答 意見箱は市長が市民の声を直接聞き、きめ細やかな施策を展開するために設置している。令和元年度は子ども・子育て関連が175件、土木・交通関連が163件、教育関連が94件など、合計1187件

の多様な意見が寄せられた。今年度は8月末までに1110件の意見があり、このうち835件が新型コロナウイルス関連だった。これらの意見に加え、市長が現場に出向き聞いた市民の声が市独自の15の支援策につながっている。今後も市民の

定された。SDGsのさらなる推進を図るためには市民の理解が重要なことから、広報あかしなどで積極的に周知していく。

SDGsの推進には、地方創生の観点から地域の特性や課題を踏まえる必要がある。SDGsの17の目標のうち、本市のまちづくりの方向性に沿った目標について優先的・重点的に取り組むとともに、社会・経済・環境の3側面のバランスも考慮し、総合的に進めたい。

県下で初めて選定 SDGs未来都市の取り組み 市民の理解が大切

問 SDGs未来都市としての取り組みを聞く。

答 本市はSDGs未来安心都市・明石を掲げ、SDGsの理念である、誰一人取り残さない、持続可能、パートナーシップを踏まえた上で、子どもを核としたまちづくりや、誰にもやさしいまちづくりを進めてきた。この取り組みにより、7月に県下で初めて国からSDGs未来都市に選



アイコンフラッグ (明石駅前)

切実な声を聴く手段として意見箱を活用する。

なお、職員が声を上げやすい組織とするため、職員用の意見箱も設置しており、勤務条件や人事制度等に関する意見が6件あった。



昨年度の市民の意見は1187件

子ども食堂

コロナ禍でも

支援と見守り

問 コロナ禍における子ども食堂の取り組みと今後について聞く。

答 子ども食堂は、全小中学校に合計44カ所開設しており、コロナ禍で休止していた食堂も6月頃から徐々に再開している。あかし子ども財団は、運営者の再開への不安に寄り添う

中学校給食

残食を減らす

献立の工夫を

問 中学校給食の残食率の改善について市の見解を問う。

答 昨年度の残食率は約8・7%で、改善の必要を認識している。本市は、衛生管理基準による時間的制約や食材の予算が限られる中、学校給食摂取基準等に基つき、必要なエネルギーや栄養を満たし、多様な食材と調理法を

ため相談に対応し、消毒液等の衛生用品を提供するなど感染症対策を含めた支援を行った。

4月からは、お弁当のテイクアウト・デリバリーを開始しており、14カ所の子ども食堂と19カ所の飲食店が1万5千食以上を提供し、

令和3年4月開校 高丘校区に小中一貫校 特色ある教育を実施

問 令和3年4月から新たに開設される高丘校区小中一貫教育校の特色について聞く。

答 高丘校区小中一貫教育校は、全学年30人学級とし、教科担任制を拡充して小中学校の教職員が相互に指導を行うなど、質の高い学びの提供を目指している。

具体的には、外国語指導助手を重点的に配置し、英語教育を小学1年生から始め、英語



市内全域から通学可能

により、指で簡単に文字を大きく表示したり、音声で文章を読み上げるなど、個別の支援が必要な子どもたちに配慮した教材の提供ができるようになる。今後、AI等の技術の進展によって、一人一人の理解度や興味と関心に

地域で子どもたちを応援したい、見守りたいという市民意識の醸成につながった。

今後も新たな生活様式に合わせた子ども食堂の開催方法を検討し、子どもたちへの食の支援や見守りが途切れないように対応していく。

力の向上を図るほか、県立明石北高等学校と連携し、理数教育にも力を入れていく。また、全教室に設置するプロジェクターと今年度整備するタブレット端末を活用したICT教育の充実も図る。

このほか、9年間を見通したキャリア教育の実施や幅広い年齢の児童生徒との交流など、さまざまな特色ある学校づくりを実施していく考えだ。

応じた個別学習も可能となるほか、ICT環境整備により、教員の授業準備や事務作業の効率化も期待できる。これまでの授業内容に最先端のICT機器を組み込むことで、学習活動のより一層の充実を図っていききたい。

大西議員に感謝状

おおにしひろのり 大西洋紀議員に兵庫県市議会議長会から感謝状が贈られ、9月8日の本会議で披露されました。これは同議員が議長、副議長を合わせて2年以上務め、地方自治振興に尽くした功績によるものです。

請願

▽採択された請願△  
○明石の豊かで美しい海の実現に関する請願  
▽不採択となった請願△  
○無症状と発症前の新型コロナウイルス感染者を早く見つける検査体制の構築を求める請願  
○子ども一人一人を大切にすることを感染症にも強い少人数学級の実現を求める請願

意見書を提出

意見書2件を可決し、政府・関係機関に送付しました。  
○新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書  
○地方自治体のデジタル化の着実な推進を求める意見書

議員ふもやま話

台風や異常気象なら、ある程度の予測ができ、最大限の防御策を立てられます。しかしながら、目に見えない新型コロナウイルスが、いつ終息するのか分からないまま、その脅威を恐れながら過ごした日々は、はや1年近くになってしまいました。  
人類の英知を絞り、可能な限り有効な予防策を行っているにも関わらず、このウイルスはいまだに猛威を振るっています。  
今、このウイルスの治療に効果的な薬品や、ワクチンの開発が何よりも最優先に取り組まれています。その完成を一日でも早く迎えることができ、以前のような人々の笑顔が戻ってくることを祈る毎日です。

GIGAスクール構想

子どもの個性に応じた学びを実現

問 ICT教育の今後の見通しについて聞く。

答 子どもたち一人一人の個性に合わせた教育の実現を目指す国のGIGAスクール構想を受け、教育委員会は、1人1台の端末と高速ネットワーク環境の整備を急いでいる。整備